

ネットトラブル防止に向けた 取組事例

平成26年度
宮崎県教育委員会ネットトラブル対策会議

はじめに

近年、携帯電話やスマートフォン等の急速な普及により、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等において、青少年の犯罪被害が増加するとともに、様々な問題行動やこれを悪用した青少年による犯罪が発生しています。

また、携帯電話やスマートフォン等の利用をめぐっては、グループ内において誹謗・中傷を書き込む、いわゆる「ネットいじめ」の問題、食事や入浴、就寝時にも使用するなどの極度の依存の問題、インターネットやメールの送受信のための時間や金銭の浪費の問題など、児童生徒の人間関係づくりや生活習慣にも大きな影響を与えることが危惧されます。

これらの問題は、携帯電話やスマートフォン等を利用している全ての児童生徒に起こり得るものであり、学校や家庭、地域における啓発が今まで以上に重要となっています。

今回、ネットトラブル対策会議においては、これらの状況を踏まえ、県内の各学校で実践されているネットトラブル防止に関する取組を集約しました。児童生徒、保護者、教職員それぞれにおける取組事例を各学校の実践の参考にさせていただき、今後、児童生徒が被害者・加害者になることなく、安心してネット社会を過ごしていけるよう、情報モラル教育の推進につながれば幸いです。

児童生徒向けの取組

1 - 1 授業における取組（小学校）

1 情報モラルに関する学習内容例

学年	単元名	授業協力者およびコンテンツ
小学校1年生	コンピュータの使い方ややくそく	情報教育アドバイザー 警察署「非行防止教室」 情報化社会の新たな問題を 考えるための児童生徒向けの教 材 警視庁 動画ライブラリー など
小学校2年生	コンピュータの使い方ややくそく	
小学校3年生	インターネットの使い方ややくそく	
小学校4年生	電子メールのやり方ややくそく	
小学校5年生	インターネットの危険性 個人情報について	
小学校6年生	携帯電話やスマートフォン等の使い方とやくそく 個人情報の取り扱いについて	

2 授業実践例（担任による授業）

1 ねらい

- (1) 携帯電話やスマートフォン等をめぐる様々な問題に目を向け、使うときのルールやマナーを身に付けさせる。
- (2) 安全に携帯電話やスマートフォン等を使うために必要なことや守るべきことを理解し、日ごろから注意して利用する態度を養う。

2 授業の流れ

- (1) 携帯電話やスマートフォン等を持っている児童を把握する。
- (2) 携帯電話やスマートフォン等を使っていて困ったことはないか確認する。
- (3) 本時のめあてを確認する。「携帯電話やスマートフォン等の使い方（使うときの注意点）について考えよう」
- (4) 警視庁動画ライブラリーを視聴する。
『守って安心インターネット』のチェーンメールと掲示板を視聴する。
- (5) 携帯電話やスマートフォン等を使うときの約束事について話し合う。
- (6) 感想を発表する。
- (7) 本時学習のまとめをする。



児童生徒向けの取組

3 授業実践例（専門家の活用：保護者参観授業における警察署生活安全課との連携）

1 ねらい

専門家を招いての情報モラルに関する具体的な場面を想定した学習を通して、児童や保護者に携帯電話やスマートフォン等の危険性を認識させ、フィルタリングや家庭でのルールづくりなどの必要性について理解させる。



2 授業の流れ

（1）事前指導

児童対象の事前アンケートの実施

- ・ 自分専用の携帯電話やスマートフォン等を持っているか。
- ・ 1日にどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォン等を使っているか。
- ・ 携帯電話やスマートフォン等で何をしているか（無料通信アプリ、インターネット、ゲーム等）。

保護者対象の事前アンケートの実施

- ・ 子どもが携帯電話やスマートフォン等を使うことについてどう考えるか。
（自由記述 いろいろな考えを知ることができる 授業に活かす）

（2）本時の指導

児童及び保護者の実態把握をした上で、携帯電話やスマートフォン等との付き合い方を考えていく。
専門家による説明を通して、携帯電話やスマートフォン等の危険性を確認しながら、フィルタリングや家庭におけるルールの必要性についても考えていく。

（3）事後指導

授業を通して見えてきた課題等について、学校における共通実践項目を検討し、実践につなげる。

4 日常実践例（友だちの良いところを手紙「ハッピーメッセージ」に書いて伝えよう）

1 ねらい

手紙を用いて、自分の思いをきちんと相手に伝えることでコミュニケーション力を高める。

2 授業の流れ

- （1）一人の児童宛に、他の児童全員がその児童の良いところや感謝の気持ちを手紙に書く。
- （2）学級全員からもらったカードを1冊にまとめて綴じ込み、各自家庭に持ち帰る。
- （3）手紙を読んだ感想をまとめるとともに、手紙や電子メールで気持ちを伝えるときに気をつけることについて考える。



（メッセージをもらった児童の感想）

私のいいところってこんなにあるんだなって思った。これからの生活にいかしたい。（6年）
これからも、1人である子には声をかけたり、いけないことには注意をしたりして、立派な高学年をめざしていきたい。（6年）

児童生徒向けの取組

1 - 2 授業における取組（中学校）

1 情報モラル啓発資料を活用した授業（技術分野における）実践例

1 題材名

「つながる」ことから身を守る。

2 目標

情報モラルを必要に応じて役立てようとする。（関心・意欲・態度）

情報を発信する際に、注意する点を考えることができる。（工夫・創造）

情報機器を用いて人とつながる時のルールやマナーの必要性を理解する。（知識・理解）

3 指導計画（全2時間）

情報モラルと知的財産（全2時間）

（利用するときのモラル 1時間【本時】 発信するときのモラル 1時間）

4 本時の目標

他人と情報機器を用いてつながる時、情報モラルの必要性を感じ、自分の身を守るための知識と技能を身につける。

5 授業仮説

身の周りで起きている SNS 等での犯罪やトラブルについて考えることで、安全に情報機器を用いて他者とのつながりをもつことができるであろう。

6 本時の流れ（右図参照）

7 評価

評価1・・・情報モラルを必要に応じて役立てようとする
 ことができたか。

評価2・・・情報を発信する際に、注意する点
 を考えることができたか。

評価3・・・人とつながる時のルールやマナーの
 必要性を理解できたか。

6 授業の流れ

段階	学習内容及び活動	形態	指導上の留意点	評価	資料等
導入	1 幼児が一人で料理をしている姿を目撃したら、どう思うか発表する。	一斉	○ 気になる意見については板書し、展開につなげる。		
展開	2 本日の学習課題を確認する。	一斉			
	つながることから身を守る				
	3 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などでどのようなトラブルが起こるか考える。		○ SNS を利用していない生徒に対しても、将来利用する機会があることを説明する。	評価3	
	4 資料を基に問題点やトラブルについて考え、犯罪や被害者、加害者になりえることを伝える。	一斉	○ 特に青少年で問題となっている無料通信アプリにおける犯罪については具体例を示す。		資料1 資料2
	5 ネット上のいじめで自殺した中学生の新聞記事を読み、行動の改善点をグループで考える。	グループ	○ 意見を付箋紙に記入し、グループで検討し、改善点を時系列に整理する。 ○ 考察の視点が定まっていないうちのグループについては助言する。	評価1 評価2	新聞記事 付箋
	6 それぞれの班の意見を発表する。	一斉	○ 他のグループの意見を聞き、改めて行動の改善点について共有を図る。	評価1 評価2	
	7 資料を基に、自分のインターネット依存度をチェックし、自分を振り返る。	個人	○ 自分のインターネット等の利用の仕方を振り返り、今後の行動について考える。		資料3
整理	8 正しい使い方を知らないことと、幼児が一人で料理をしていることについて共通点を考える。	一斉	○ 補足説明を加えながら理解を深める。	評価3	

児童生徒向けの取組

【授業で使用した情報モラル啓発資料(県教育委員会ネットトラブル対策会議作成)】

資料 1

情報モラル啓発資料

中学生のみなさんへ

SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)

LINE、Facebook、Twitter など、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)と呼ばれる楽しく便利なツールが皆さんのまわりには、あふれています。多くの人とコミュニケーションがとれるサービスは、とても魅力的です。しかし、人と人のつながりを深め、サポートするコミュニティ型 Web サイトは、楽しい反面、多くの危険がひそんでいます。

また、これらのサービスによるトラブルが後をたちません。皆さんのまわりにも、これらのサービスでのやりとりが原因となり、人間関係が悪くなった、トラブルに巻き込まれた友だちはいませんか。

もう一度、どのようなことに気を付けなければいけないのか、どのような使い方が危険なのか、考えてみましょう。

4,700 万人のユーザーを持つ「LINE」

今年に入って、LINE を悪用したり、LINE がきっかけの様々な事件が発生しています。LINE はスマートフォンを中心としたメッセージ・無料電話サービスで、国内利用者はすでに 4,700 万人を突破。スマートフォンでのコミュニケーションツールの定番となっています。

LINE をきっかけとする事件は年々、増えており、未成年者が被害者になるものも多発しています。IDさえあれば、電話番号やメールアドレスを知らなくても直接やりとりができるため見知らぬ人に ID を知らせることによってトラブルに発展しやすくなります。

LINE 利用者の対策としては、ID は設定しなさい。または見知らぬ人に ID を教えなさい(公開しなさい)ことが大切です。LINE はもともと、見知らぬ人との交流を目的として作成されたものでないため、対策の甘さも指摘されています。

「LINE」によるはじめ

「LINE」ユーザーは特に若年層に多く、中高生などは「グループ」をつくって実際の友達と交流を深めていることが多いようです。しかし、このグループが、現在では悪質なネットいじめが行われる場にもなっているようです。

実は「LINE」にはグループのメンバーを強制的に退会させる機能があります。この仕組みがインターネット上で「仲間はずれ」をつくるものとして利用されており、現実の学校生活の中でもこのことがきっかけで友人関係がうまくいなくなったりしている事例も多く出てきているようです。さらに、従来の掲示板などと同じようにこのグループの中で特定の人物に対しての誹謗・中傷が行われている状況も問題視されています。

資料 2

このようなトラブルが起きています

メールや掲示板でのトラブル

差出人が分からない相手から、「死ね」消えろ、などのメールが大量に送られてきたり、掲示板に実名をあげて、「○○きもい」などと書き込まれたりした。

「おかしな」によるトラブル

子どもに「おかしな大人」とゲームサイトの掲示板で知り合い、仲良くなった後に、嫌な写真を送るよう強要された。

ゲームサイトなどの違法トラブル

無料で遊べるゲームサイトで、ゲームで使うアイテムが有料であることを知らずに購入しアイテムを購入し、翌月に多額の使用料が請求された。

情報発信によるトラブル

ふざけ半分で投稿したつぶやきや動画などがインターネット上で問題があると多くの人に非難され、投稿者推しの結果、自分や家族の名前、顔写真などが公開された。

このような事件が起きています(罪に問われます)

威力業務妨害とされた事件

生徒が、掲示板に在学している学校名を挙げて「明日、学校を爆破する」と書き込み、威力業務妨害容疑で書類送検された。

児童買春・児童ポルノ禁止法違反とされた事件

生徒が、同級生の裸を携帯電話のカメラで撮影し、その画像を友達に送信して、児童買春・児童ポルノ禁止法違反で書類送検された。

名誉毀損とされた事件

生徒が同級生の実名をあげて「うちの中学校に援助交際した女がいっぱい。○○ちゃん」などの電子メールを友人に送信し、名誉毀損で書類送検された。

脅迫とされた事件

生徒が、学校裏サイトに同級生の実名をあげ「殺す」と書き込み、脅迫罪で逮捕された。

資料 3

「ネット(携帯電話等)依存」に関するチェックシート

◁今の自分を振り返ってみよう▷ 当てはまるものを選んで○をつけよう		○
1	あなたは、スマートフォンや携帯電話を利用している。	
2	あなたは、一日のスマートフォンや携帯電話の使用時間を決めていない。	
3	あなたは、携帯電話やスマートフォン、インターネットなどを使うときの約束事がない。	
4	あなたは見知らぬ人とメールやメッセージのやりとりなどをしたことがある。	
5	あなたは、他人から送られてきたメールにすぐに返事をしないことで、他人に怒られたり仲間外れにされるという不安がある。	
6	あなたははじめの標的にされたり、または仲間を排除したり、仲間内で誹謗中傷の言葉のやり取りをしたことがある。	
7	あなたは睡眠不足、インターネット疲れによって、学習に意欲がなくなっている。	
8	あなたは刺激的な映像や情報以外には興味をもてなくなっている。	
9	あなたは考え方や行動が自己中心的になっている。	
10	あなたは相手がどんなに腐っても、自分は面白みを感じないようになっている。	

○が多い人ほど、依存度が高くなっています。

依存度の高い人は、インターネットや SNS などの使い方を考えていきましょう。

情報モラル関連サイト URL 集

- (財)コンピュータ教育開発センター
「ネット社会の歩き方」
<http://www.ccc.or.jp/net-walk/>
- 警察庁
「サイバー犯罪対策 情報セキュリティ対策ビデオ」
<http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html>
「キッズ・ハートロール」(小学生向け)
<http://www.npa.go.jp/cyberpolice/kids/>
- 独立行政法人 情報処理推進機構
「映像で知る情報セキュリティ対策」(中高生向け)
<http://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/videos/20130329-3.html>
- スマホにひそむ危険
「疑似体験アプリ」
<http://www.daj.jp/cs/sp/app/>

相談連絡先および URL 集

- 警察庁
「インターネット安全・安心相談」
<http://www.npa.go.jp/cybersafety/>
- 県警察本部サイバー対策室 Tel 0985-31-0110
- 県教育委員会
「ふれあいコール」 Tel 0985-38-7654
「県教育庁学校政策課 生徒指導・学校安全担当」
Tel 0985-26-7238
- 「ネットいじめ目安箱サイト」
<http://meyasubaKo.miyazaki-c.ed.jp/>

QRコード



児童生徒向けの取組

1 - 3 授業における取組（高等学校）

1 LHRの実践例(いじめに関する統一LHRでの取組)

1 題材名

「ケータイの使い方を考える」

2 授業の流れ

- (1) 問題提示
- (2) グループ討論
- (3) 発表
- (4) まとめ

3 いじめに関するアンケートの実施(授業後)

- (1) 統一LHR終了時に配布
- (2) 家庭で記入
- (3) 翌日回収
- (4) アンケートの分析、職員間での共有
- (5) 二者面談の資料として活用

ケータイの使い方を考える(授業の流れ)

使用教材：配付資料4枚、発表用の紙（A3くらい各班1枚）、いじめアンケート1枚、
タイマー1個（各クラスに持って行ってください）

時間	活動内容	詳細
3分	グループづくり	クラスに3～4人のグループをつくらせてください。机の移動もお願いします。
7分	1. 依存症チェック	全員に、1枚目の資料を配付してください。前文・事例1を読み上げた後、ケータイ依存症チェックをさせて下さい。(5分) どの生徒にも、「 <u>自分で気づかないうちに依存症になっている</u> 」ことを確認させます。(2分) ※ちなみに、5個以上該当する生徒はかなり深刻です！
10分	2. ケータイと人間関係	全員に、2枚目の資料を配付してください。事例2を読み上げ①②を各自で記入させた後、グループで話し合ってください。(5分) 出た意見を、数名に発表させてください。「みんながやっていたから」のような意見が出ると進めやすいです。(3分) そのまま「 <u>同調圧力</u> 」という単語を紹介してください。みんなに合わせて、軽い気持ちで、罪悪感も薄いまま、人を傷つけることがあることを確認させます。(2分)
19分	3. ケータイを使う時のマナーづくり	全員に、3枚目の資料を配付してください。前文を読み上げた後、まずは個人で①を記入させてください。(2分) 各班で、②の作業をさせてください。(2分) (この間に、発表用の紙を各班1枚ずつ配付してください。) 各班で③の話し合いをさせてください。選ばれた意見を紙に記入します。記入ができた班から、黒板に貼らせませう。(10分) 各班から出た意見を、先生がまとめてください。出た意見は、プリントの④に書き写させてください。(5分) (各班の発表時から並行して書き写させても良いです。)
3分	4. 最後に…	全員に、4枚目の資料を配付してください。携帯に依存しなくとも、幸せな生活は送れることも、伝えてください。(3分)
3分	いじめアンケート配付	最後に、いじめに関するアンケートを配付して、自宅で書いてくるように指示してください。



児童生徒向けの取組

【授業で使った資料】

ケータイの使い方を考える

今回の人権学習は、ケータイ（当然スマホも含める）について考えます。
近年、〇〇高校でも、ケータイの使い方が原因で、人間関係がおかしくなる生徒が増えています。
今、ケータイを持っていない人も、社会に出れば必ずケータイを使います。今のうちに、しっかり勉強しておきましょう。

1. 依存症チェック

【事例1】

Aさんは、友達と一緒にLINEを始めました。今では暇さえあればスマートフォンをいじっています。授業中はさすがに我慢していますが、登下校中は「歩きスマホ」。家にいるときも、お風呂に入っている間などのわずかな時間を除き、スマートフォンを触り続ける毎日で、成績は落ちてしまいました。親からは、「スマホに気をとられすぎているのではないかと」言われるけれど、Aさんにしてみれば、あくまで暇なときや勉強の息抜きに、また友人と連絡を取る必要があるときに、LINEでトークしているだけなのです。

（出典：ネット依存相談の窓口から2「キミのミライ発見」活用ガイド）

どうやら、気づかないうちに**ケータイ依存症**は進行していたようです。そこで、ケータイ（スマートフォン）への**依存度チェック**をしてみましょう。いくつ自分に当てはまるかチェックしてください。

ケータイ依存症チェック

- ケータイを忘れると意気込んででも取りに戻る。
- 食事しながら、風呂につかりながら、勉強をしながらなど、ながらケータイをしている。
- 授業中もケータイが気になる。
- ケータイが鳴っていないと気づいていないと錯覚する。（**幻想振動機群**といいますが。）
- ケータイのほかに楽しいことがない。
- リアル友達よりも、ネット友達の方が多い。
- ファミレスなどで友達と一緒にいてもずっとケータイをいじっている。
- 休みの一日のほとんどを、ケータイをいじって過ごす。
- ケータイがないと不安になる。
- 遅刻や人間関係など、ケータイがもたらした失敗がある。

チェック数と診断結果

- 0～1個 正常の範囲内（でも、ながらケータイはなるべくやめよう。）
- 2～4個 軽い依存症（もしも自覚していない場合、症状は進行していく。）
- 5～8個 完全に依存症（人間関係に歪みが生じるが、本人は気づいていない。）
- 9～10個 重度の依存症（学校生活や社会生活に支障が生じる。）

3. ケータイを使う時のマナーづくり

ここまで、**ケータイ依存症**と**ケータイが原因の人間関係トラブル**を見てきました。ケータイ依存症は、精神的にも身体的にも悪影響を及ぼします。また、ケータイがもたらす人間関係のもつれが発生し、いじめなどに発展してしまうこともあります。ケータイは便利なツールですが、使い方を間違えると大変な悪影響があります。あなたはケータイ（スマホ）を使用する際、どんなことに気を付けていますか？

①ケータイ（スマホ）を使用する際、気を付けた方がよいことを考えてみましょう。

②各席で、どのような意見が出たかを共有しましょう。

③その中から「これだけは絶対守るべきだ！注意すべきだ！」などと思うことを1つに決めてみましょう。
（選んだら、組の代表者は紙に書き写し、黒板に貼って下さい。）

☆私達の班では…

④各席から出した意見を、クラス全員で共有しましょう。

☆ケータイを使う時のマナーは…

あなたのクラスでは、どのような意見が出たでしょうか。
今回話し合った内容をもとに、みんなが気持ちよく暮らせるようにしましょう。

2. ケータイと人間関係

【事例2】

Bさんはあるとき、クラスの仲間と一緒にスマートフォンのカメラで写真を撮りました。ごく普通のクラスの集合写真です。ただ、その中でBさん1人だけが皆と違う色のセーターを着ていたのです。

クラス全体で作っているグループのグループボードの画像が貼られたあと、Bさんを指しているような書き込みが展開されていきます。「ひとりだけ注目浴びたい人？ありえない？」これを発端として、クラスのグループトークにはBさんに対するイヤミ、あてつけ、皮肉などが次から次へと書き込まれ、さらには問題の画像からわざわざBさんだけを切り抜いたりする子も出てくる始末。本人が事態に気づいたときには、クラスのみんながBさんをネタに、トークで盛りあがっていたのです。

でも、Bさんはいろいろと言い返したので、深刻ないじめにはなりません。そしてBさんも「みんなも悪気があったわけじゃないし、ふざけただけだと思おう。」と書かれています。（出典：ネット依存相談の窓口から4「キミのミライ発見」活用ガイド）

①なぜBさんは、このような嫌がらせの書き込みを受けたのだと思いますか。

②Bさんは「みんなに悪気はなく、ふざけただけだと思おう。」と書かれています。あなたはどのように思いますか。

（ ）から逃れるのは難しい。

仲間内の誰かをのけるのは現実でもあるけれど、LINEはそれを簡単な操作でできる。「みんながやっているから、自分も合わせないと…」空気を讀んだつもりで、ひどい事をしていくことに気づけない。

LINE上のいじめ行為は相手の表情などを直接目にしないので、相手を傷つけているという罪悪感も薄い。

（出典：ネット依存相談の窓口から3「キミのミライ発見」活用ガイド）

4. 最後に・・・

これは、ある男子生徒の体験記です。

はじまりの、はじまり

ある日、その時が突然やってきた。

僕が家の階段を下りる最中、ポケットからずるりと携帯が落ち、大きな音を立て地面に叩きつけられた。慌てて「安否」を確認すると…電線が入らない。一瞬にして血の気が引いた。

それからは、今までの生活とは一変し「これから携帯無しでどうやって生活していけばいいんや！」と悩む毎日だった。それもそのはず、携帯が壊れる前の自分はまるで普通ではなかった。食事中に携帯をいじるのは当たり前、食事が終わればベッドへ直行し『携帯』の繰り返し。さらに寝る間も借しんで携帯をいじって、気が付けば深夜三時を回る事もしばしば。そのため学校で授業中に寝てしまったり、集中できなくなるといった事も頻りにあった。

携帯が壊れてから、毎日暇な時間を過ごしていく内に、時間が勿体無いと感じ「何かしよう！」と考えた。それからは余暇を家事や勉強に費やし、充分な睡眠も取るようにした。すると自然に授業に集中する事が出来、休み時間も友達と話すのが一日の楽しみになりつつあった。そうして依存する物が一つなくなる事により、家事等での手伝いも出来るようになった。また、友達と接する機会が多くなって、以前よりもコミュニケーション力が身についた様に思える。まさに一石二鳥。

親からは「あんた別にケータイ使してもええねんで」とは言われている。でも僕はまだ携帯電話を修理に出す気は今のところない。

（出典：「17歳のメッセージ 2013」）

なぜ、この男子生徒は携帯電話を修理に出す気は無いのでしょうか。

今のあなたに、わかるでしょうか。

児童生徒向けの取組

2 講演会や集会における取組

1 啓発のための講演会や集会の実施例

1 ねらい

情報モラル教育を進めるにあたっては、機器やそれに関するサービス（ソフトやアプリケーションなど）の進化が早いことから、情報モラル教育に大変さを感じている人もいます。しかし、情報モラル教育については日常モラルやインターネットの特性などは不易な部分であり、変化するのは機器やサービスの部分である。

そこで、変化する機器やサービスについて外部専門家を有効に活用し、情報モラル教育の充実を図る。

2 実施例

(1) 生徒向けのサイバー犯罪防止教室

講師 地域警察署の生活安全課または県警察本部サイバー犯罪対策室

(2) 携帯電話・インターネットに関する講演会

講師 携帯電話会社、公益財団法人 等

時間	活動内容
(5分)	1 講師紹介
(40分)	2 講演及び説明 ・ DVD 視聴、説明、講話
(5分)	3 生徒代表お礼の言葉 生徒会生活委員長

(生徒の感想（一部抜粋）)

SNSをする際は、相手のことをきちんと考えてするようにします。また、人が傷つくことは絶対に書きません。

今まで何も考えずに使っていたので、親とも話をし、しっかりと使い方を考えていきたいです。

今日の講演を聴いて、個人情報流れやすいということが分かった。トラブルに遭わないようにするためにも自分や相手の個人情報を大事にしないといけないと思った。



2 啓発のための集会の実施例

【活用した資料例】

情報モラル啓発資料 中学生のみなさんへ（県教育委員会作成）

- ・ ソーシャル・ネットワーキング・サービスについて
 - ・ ネット上のいじめについて
 - ・ 犯罪について など
- 考えましょう。こどものネット利用！（県子ども政策局 子ども家庭課 青少年健全育成担当作成）
- ・ インターネットの危険性について
 - ・ インターネットに接続できる機器について
 - ・ フィルタリングについて
 - ・ 軽はずみな書き込みの影響について など

児童生徒向けの取組

3 その他の取組

1 生徒会や委員会活動での取組事例

- 1 生徒会を主体にして、生徒自らが携帯電話・スマートフォン等の利用状況を把握するためのアンケートを作成し、今後の生活に活かすようなルールを作成
- 2 委員会活動で携帯電話やスマートフォン等に関わるトラブルやネット依存について調べ、校内に掲示し啓発
- 3 生徒総会やLHRなどで議題として取り上げ、生徒主体の活動を軸とした啓発の実践



2 中高連携による取組事例

- 1 中学校と高等学校（商業系）の連携事業の一環で、情報モラル教育に関する出前授業を高等学校の生徒が先生役になり実施



保護者向けの取組

1 P T A 総会や参観日等における取組

1 P T A 総会における啓発事例

1 学校や教育委員会などの基本的な考え方を保護者に説明

携帯電話やスマートフォンなど学校に不要なものは原則持ち込まないこと。

どうしても持たせなければならないときは、保護者の責任で、使用時間やフィルタリングなど管理をしっかりと行うこと。

携帯電話やスマートフォンにおける問題行動に対する学校の指導や対応に関すること。

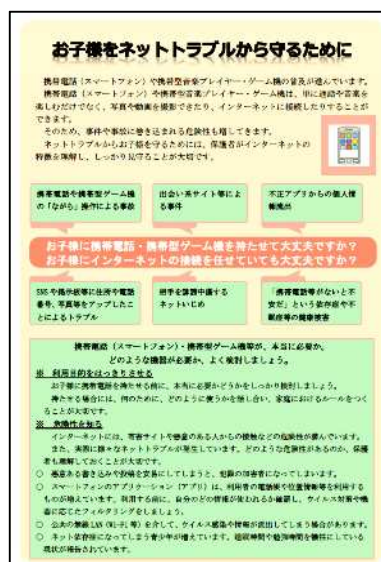
説明資料については、情報モラル啓発資料(県教育委員会ネットトラブル対策会議)「保護者の皆様へ」を配付し、活用を図った。

地域によっては、学校における携帯電話・スマートフォン等の使用について、従来の校内持ち込み禁止に加え、家庭でも夜9時以降、SNSなどの利用は禁止とする内容を追加したところもある。

保護者への説明や家庭での使用制限を設けた地域での成果

考え方を共通認識することで家庭や地域での指導がやりやすくなった。

子どもたちも決められた時間以降は対応に時間がとられなくなった。



情報モラル啓発資料(県教育委員会ネットトラブル対策会議)

保護者向けの取組

2 参観日における講座による啓発事例

1 啓発のための研修会や講座の開催

(1) eネットキャラバンの活用

総務省九州総合通信局電気通信事業に依頼し、「e-ネットキャラバン」推進センターへ申込みを行った。

内容

- ・ インターネットで広がる世界
- ・ デジタルネイティブについて
- ・ 携帯電話に対する依存
- ・ ネットによるいじめ
- ・ フィルタリングの重要性

(2) その他の関係機関や外部専門家の活用

主な依頼先（警察署生活安全課、携帯電話会社、NPO法人）

（保護者の感想（一部抜粋））

「ライン外し」という言葉を初めて知りました。息子がスマホを利用しているので心配なところはたくさんありますが、今後家庭でのルールを決めて、親子で利用していきたいと思います。

我が家では携帯は持たせていませんが、iPodがあるので、利用時間や親子での確認を約束しています。しかし、日々、新しいゲームが出るので、親も情報についていくのに必死です。

自分も理解しないまま、スマートフォンを利用しているなど反省しました。今の子どもたちは、メールなどに頼りすぎていて面と向かって話すことが苦手な上に友達関係にもかなり敏感になっているなんてかわいそうに思いました。

2 その他の取組

1 P T A 活動を通してのネットトラブル対策

1 啓発のための研修会の開催

(1) 小中合同学校保健委員会での取組

「メディアが脳に及ぼす影響」と題して、講演会を実施

主な内容（ネットが及ぼす具体的影響）

- ・ ネット依存症（成績ダウン、不登校）
- ・ 日常生活の乱れ（食事や睡眠への影響など）
- ・ 精神の不安定（イライラする、キレやすい）
- ・ 家族対応のポイント

(2) 地区 P T A 生活指導連絡協議会での取組

中高生における携帯電話・スマートフォン等におけるトラブルなどの現状把握

地域で活躍するスクールサポーターなどから指導や助言をもらい、より地域の課題を解決するための具体的な方策を検討

保護者向けの取組

2 家庭向けアンケート調査の実施及び情報発信

1 アンケートの実施

家庭向けにアンケートを実施し、所持率や利用時間、家庭でのルール等について調査

< 調査項目（例） >

所持率 利用時間 家庭内のルールの有無 など

2 アンケート結果の活用

(1) 調査結果については各家庭に報告し、現状の理解や今後の対策（家庭におけるルールづくり）に活用してもらう。

(2) アンケート結果をもとに、それを学級懇談会のテーマにするなど啓発に活用する。

3 学校便り等による情報発信

各家庭に配付する学校便りによる保護者への啓発を実施

ネットトラブル等に関するアンケート（保護者用）

中学校生徒指導部

（ ）年 男子 ・ 女子

○ 最近、インターネットやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）による、トラブル、いじめや様々な事件があつたとお知らせ。本校でも、SNSを利用している生徒が多くなってきている状況の中で、このようなことに巻き込まれてしまう危険性があることも否定できません。そこで、大変お忙しい中に恐縮ですが、御家庭での状況を把握させていただくため、アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

1 子ども専用の携帯電話（スマートフォン）、Ipad・Ipad、ゲーム機・音楽プレーヤー等を持っていますか。 はい・いいえ

2 利用料金（使用状況）等の確認（チェック）をしていますか。 はい・いいえ

3 インターネット、メール、ゲームの使用時間、使用場所等のルールを決めていますか。 はい・いいえ

4 家庭でのルールを破った時などの対応法がありますか。 はい・いいえ

「はい」と答えた方
具体的に

5 日頃から、子どもとインターネットや携帯電話（スマートフォン）に関する話を話していますか。 はい・いいえ

6 インターネットや携帯電話を巡るトラブル・事件について危機感をもっていますか。 はい・いいえ

7 子どもの使用状況等に危機感（心配なこと）をもっていますか。 はい・いいえ

8 その他
インターネットを巡る問題等で気になっていることがあれば自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

家庭での利用ルール（例）

1 どんなどきに使う

- 食事中は使わない。
- お風呂に持ち込まない。
- 夜〇時を過ぎたら利用しない。
- 1日〇分以上使わない。
- 家で使うときはリビングで使う。

2 何のために使う

- 自分の個人情報を書き込まない。
- 相手を誹謗中傷する内容は書き込まない。
- 知らない人からメールがきたら保護者に報告する。

3 使うための約束

- 明細で料金を確認する。
- 料金が〇〇〇円を超えた翌月は利用できない。
- 着メロ、音楽、ゲーム等は勝手に会員登録やダウンロードをしない。

教職員向けの取組

1 校内研修における取組

1 校内研修の実施例

1 外部専門家による研修

- (1) インターネットを取り巻くトラブルや事件の説明
- (2) パソコンツールによる疑似体験研修

2 学校の情報モラル教育担当職員による研修

- (1) 平成25年度携帯電話等に関するアンケート結果概要（県教育委員会）の説明
- (2) 「教育ネットひむか」ホームページからネットいじめ目安箱について情報モラル教育リンク集の紹介
- (3) 情報モラル啓発資料（県教育委員会ネットトラブル対策会議）の紹介・配付
- (4) 月刊書や新聞記事などを利用し補足資料を作成して研修で活用

小学生が無料通信アプリによっていじめられた事案を使い、どうしていじめにつながったのかをプレゼン資料で示しながら検討

携帯電話やスマートフォン等の操作技術が未熟な状態で、児童がアプリを使おうとしている実態の理解
ネットトラブルの対処方法について説明

掲示板等のコメントを削除する方法などについて理解



他小学校の実例

クラスの女子は、ほぼ全員LINEをしている。

花子は、母親のスマホを借りてLINEに参加。

この後、花子は、友達から仲間はずれにされ、現実世界でもいじめにあう。

ネットいじめ → 現実へ



教職員向けの取組

【参考資料：情報モラル啓発資料(県教育委員会ネットトラブル対策会議作成)】

校内研修の進め方についてプランをお持ちですか

まず、校内の情報教育上の課題を洗い出しましょう。

(例)

- ・情報教育の指導力向上を図るため
- ・教職員に情報機器の操作方法を学んでもらうため
- ・ネット関連の問題発生時の対応マニュアルを作成するため

次に、研修目的を明確にしましょう。

(例)

- ・情報教育の指導力向上を図るため
- ・教職員に情報機器の操作方法を学んでもらうため
- ・ネット関連の問題発生時の対応マニュアルを作成するため

最後に、研修の回数と時期を決めましょう。

- ・計画を立てる際、教務主任や研究主任、生徒指導主事にも相談しましょう。
- ・一コマの研修は、60～90分程度で計画しましょう。
- ※ 次項に、研修のレジユメの例を掲載しています。



平成〇〇年〇〇月〇〇日

第〇回 校内情報教育指導研修(例)

1. 研修のねらい

- 本校の情報教育指導の体制をより機能させるために協議や演習を行い、現在の指導体制を見直す機会にする。
- 研修を通して、職員一人一人の、情報教育指導における資質・能力を高める。

2. 全体計画(年3回)

回	期日	テーマ	内容
第1回	春季休業中	機器活用	○ 校内の情報機器の操作方法や授業での活用方法を校内の教職員間で伝達し合う。
第2回	夏季休業中	指導計画	○ 年間の指導計画を見直し、授業展開を改善したり、必要なソフト等を共有したりする。
第3回	冬季休業中	情報モラル	○ 情報モラルにかかわる研修を、教職員や保護者向けに実施する。 ○ 児童生徒への情報モラルの指導の在り方についての研修を行う。

3. 本日の研修内容 〇:〇〇~〇:〇〇

(1) 研修目的・研究計画・関連資料についての説明(担当者)〈 分〉

(2) 情報教育についての研修

ア	アイスブレイキング	〈 分〉	:	~	:
イ	研修・演習	〈 分〉	:	~	:
ウ	情報交換	〈 分〉	:	~	:

(3) まとめ(校長先生より)〈 分〉

MEMO